水　産　の　窓

３年 － Ｎｏ．１５
令和３年９月２４日
茨城県水産試験場

鹿島灘はまぐりの資源状況

鹿島灘はまぐり（以下、はまぐり）は大洗以南の本県沿岸漁業の重要対象種です。資源量は、数年に一度おこる大規模な発生（以下、卓越年級）に支えられています。近年では、平成 26 年生まれ（以下、H26 年級群）が 21 年ぶりの卓越年級となり、漁獲の主体となっています。

水産試験場では、はまぐりの資源状況を評価するため、調査船「せんかい（4.9 トン）」による採集調査を行っています。今年の調査は大洗町大貫地先から神栖市波崎地先にかけて、約 4 km 間隔で設定した 16 地先の距岸 200～1,600 m の範囲に設けた合計 95 の定点において、5～8 月に実施しました。各定点では小型貝桁網（桁幅 56 cm、爪間隔 24 mm）を最大 10 分間曳網し、曳網面積当たりの分布密度を求め、鹿島灘におけるはまぐりの資源個体数及び資源重量を推定しました。

－ 資源個体数･資源重量はやや減少 －

採集されたはまぐりの大きさは、殻長 80mm 前後の H26 年級群が主体で、H29 年生まれと推測される殻長 68mm 前後の小型貝（以下、H29 年級群）もみられました（図１）。一方、殻長 50～60mm まで成長すると考えられる H30～R1 年生まれはあまり採集されませんでした。

地先別の分布密度をみると、鹿嶋市平井や神栖市波崎地先で殻長 70mm 未満の小型貝の密度が特に高くなっていました（図２）。

これらに基づき R3 年の資源量を推定すると、資源個体数は 3,862 万個、資源重量は 4,363 トンと算出されました。R2 年の資源個体数 4,302 万個、資源重量 4,535 トンと比較するとどちらもやや減少しました（図３）。減少した理由としては、①漁獲による減少と、②今年漁獲サイズに達する H30～R1 年級群の加入が少なかったことが考えられます。

今後のはまぐり資源の利用については、H26 年級群は引き続き漁獲の主体となりますが、H29 年級群は、H26 年級群に比べて資源個体数が少なく、分布も平井や波崎地先周辺に集中していることから、資源の動向を注視しながら、計画的な漁獲を継続していく必要があります。

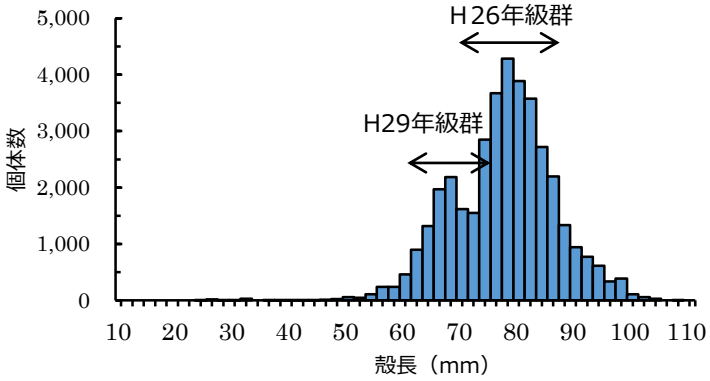

図１　鹿島灘はまぐりの殻長組成

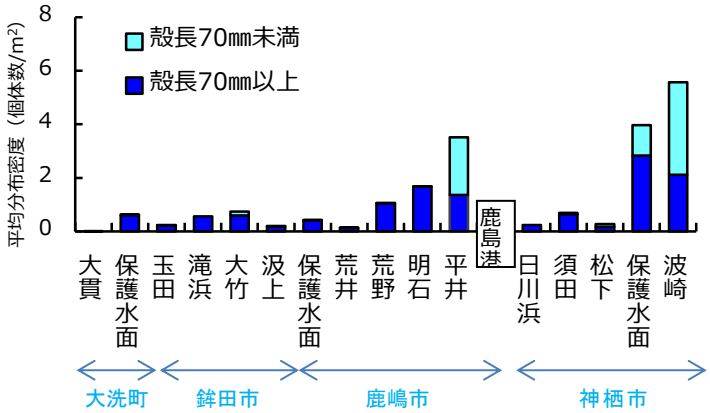

図２　鹿島灘はまぐりの地先ごとの平均分布密度

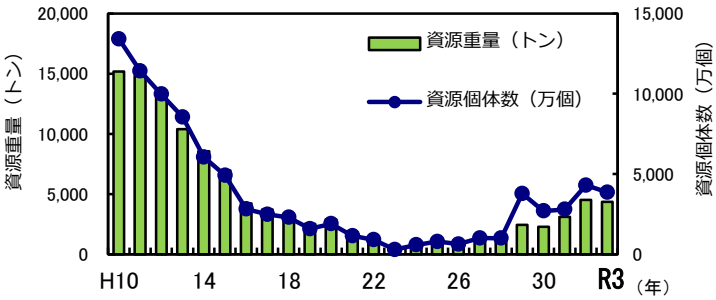

図３　鹿島灘はまぐりの推定資源量推移

（定着性資源部　遠藤友樹）

【次号予告】Ｒ３.10.８発行の水産の窓は「底魚資源調査結果」を予定しています。